

令和 7・8 年度 第 4 回「おおた生涯学習推進プラン」推進会議
議事要旨

日時 令和 8 年 6 月 22 日（月）午後 2 時から午後 4 時まで
場所 大田区役所本庁舎 201 会議室
出席者 名和田委員（会長）、倉持委員（副会長）、青海委員、石井委員、
井上委員、海老澤委員、大島委員、尾上委員、金田委員、栢沼委員、
近田委員、近藤委員、嶋村委員、高橋委員 （役職・50 音順）
※笈川委員 欠席

1 開会

【事務局】

第 4 回「おおた生涯学習推進プラン」推進会議を開催する。
会長に議事進行をお願いする前に事務連絡をさせていただく。
会議録の作成につき、議事の録音及び写真撮影をさせていただくため、御了
承いただきたい。

今回の会議から出席いただく委員を紹介する。

大田区中学校 P T A 連合協議会 石井委員、

大田区立小学校校長会 尾上委員、

大田区立中学校校長会 青海委員、

一般財団法人国際都市おおた協会 栢沼委員。

笈川委員からは、欠席の連絡をいただいている。

関係所属として、区民協働・多文化共生担当課長の井上、スポーツ推進課長
の大竹、文化芸術推進課長の三上、大田図書館長の杉村が出席させていただく。

2 開会（部長挨拶）

【事務局】

それでは開会にあたり、スポーツ・文化芸術担当部長からご挨拶申し上げます。

【スポーツ・文化芸術担当部長】

日頃より区の生涯学習、地域コミュニティの発展にご尽力賜り、お礼申し上げます。

生涯学習推進プランが計画期間の終盤を迎え、これまでの歩みをさらに進める時期となっており、第2次計画の策定に取り組んでいるところである。計画の推進にあたり、区の考えとして、まずは学びの裾野をどこまで広げられるかという点がある。学びは、生活を豊かにし、人生を支える糧になるものであるため、誰もが気軽に学び始められる環境を整えることが重要であるとする。そして、学びは個人の成長だけではなく、人と人とのつながりを生むことができる。つながりこそが、孤立を防ぎ、地域コミュニティを形成する鍵となると考える。さらに、その学びの成果が地域へ還元される学びによる地域づくりを推進していきたい。学びが地域のエネルギーとなり、区の未来を支える力となる持続可能な循環を皆様と計画の中で形にしていきたい。本日は、忌憚ない意見をいただきたい。

【事務局】

本日は、当該プランの策定支援業務を委託している事業者も参加させていただく。

3 会長挨拶

【会長】

昨年度に引き続き次期計画の策定でご審議いただいているが、本日は理念を定めるという非常に重要な局面にきている。

議題に入る前に、会議の公開についてお諮りする。推進会議運営要綱第7条に、「推進会議は、原則として公開とする。ただし、1 公開することにより公正かつ中立な審議に著しい支障を及ぼすおそれがあると認められる場合、2 特定の者に不当な利益または不利益をもたらすおそれがあると認められる場合、3 会議の内容に個人情報が含まれている場合は、会議の全部又は一部を非公開とすることができる」とある。本日の会議の内容には、それらに該当する内容は含まれていないため、会議は公開とする。異議はないか。

(異議なし)

会議の内容については、議事要旨を作成し、各委員に確認のうえ、区のホームページにおいて公開する。

4 議題

【会 長】

議題1「現行計画の振り返り及び第2次計画について」、事務局から説明をお願いします。

【事務】

資料1から4までに基づき説明

【会 長】

資料は、現行計画についての振り返りと、これまで推進会議で審議してきた内容を第2次計画の目標や施策として事務局でまとめたものである。

重点的取組についてご意見があればお願いします。

【委員】

重点的取組2の要素に「次世代の育成」とあるが、地域との関係は非常に重要な要素であるため、「地域貢献」や「地域活性」といった言葉を要素として挙げておくのが良いと感じた。

【事務局】

学校や地域団体など様々な活動がある中で、地域貢献のような活動も学びの入り口となり得るため、しっかり意識して進めていきたい。

【委員】

重点的取組2について、区外から通学する学生への期待は自分も非常に感じている。学生が地域の催しで活躍する姿は非常に清々しい。若者が講座のプロデュースなどから全て行い、フィードバックを行うなど、学校との連携を盛り

上げていただきたい。若者が参加することで、区民全体の参加意識も高まると思う。

【事務局】

先日も大学と連携した事業を行ったが、情報発信の手法など様々な気づきを得た。若者の意見を取り入れながら事業を組み立てることで新たな参加につながり、地域への愛着や将来の地域貢献に発展すると考えている。

【委員】

地域人材を育て、地域のニーズとつなぐという理念には賛同するが、具体的な方法が見えにくい。例えば、講座受講者に資格や証明を付与し、それを持つ人が地域で活動する仕組みや、活動の記録を残し区から表彰する制度があれば、やりがいにつながるのではないか。講座を受講することで何か資格のようなものが得られれば、学校からのお手伝いの依頼などとマッチングしやすくなり、それが個人の生きがいや、より良い社会の形成に繋がると思う。

【事務局】

学校でのボランティアなど動機付けとなる仕組みは既にあり、生涯学習の事業でもボランティア制度などあるが、周知が不足している部分もある。既存の制度のPRを強化し、地域でのマッチングや次の活動へつなげる工夫をしていきたい。具体的な施策は今後の会議で提示させていただきたい。

【委員】

自治会活動はコロナ禍前に戻りつつあり、学校や出張所との連携が多い。しかし高齢化が進む中、次世代への継承が課題である。学校でもPTA役員の成り手が不足しており、特定の人に負担が集中している。地域を挙げて人材発掘と育成を行っていくことが、これからの地域づくりの大きな課題であると感じている。

【会長】

具体的な施策については次回の会議でご議論いただく。またお知恵をいただきたい。

他にご意見がなければ、重点的取組については、ここまでとさせていただきます。

若い世代は今までと異なるライフスタイルを有しており、世代をつなぐ工夫が必要である。

それでは次に、理念の確定について議論を進めたい。事務局から第2次計画の理念案について説明をお願いします。

【事務局】

資料2に基づいて説明

【会長】

大元の思いは一つであるが、どこに重点を置くかで表現が異なっている。今後の生涯学習の方向性を示す重要なものであるため、それぞれの感性を活かして忌憚のないご意見をお願いします。

【委員】

学んだ後に人から頼られることは嬉しいものである。案Bがしっくりくるが、「学び合い」に加えて「支え合い」という言葉を入れると、学んだ結果が誰かの役に立ち、自分もまちも輝くというニュアンスが出て良いのではないか。

【副会長】

大田区らしさや、目標・施策のコンセプトを象徴するキーワードが含まれているかどうかとも考え方の一つであると思う。また、行政だけでなく区民と共に実現していくものであるため、分かりやすさや伝わりやすさも重要な観点である。

【委員】

特に案Cの「共につくる（共創）」という言葉が良いと思うので、ぜひ入れ

ていただきたい。案Aの「未来を拓く（創造する）」もニュアンスが似ていると思う。

【委員】

案Aと案Bは学ぶ主体が個人であり、現行計画の延長という印象がある。案Cは地域の未来に主眼が置かれており、一歩進んだ印象を受けて良いと感じた。

【会長】

案Aは個人を出発点として広がっていくという、理念に込めた想いを表しているものとも言えると思う。案Cは地域づくりに踏み込んでいる。

【委員】

案Cが良いと考える。学ぶことは生きていくことであり、地域の一員として活躍することが重要である。個人の成長と地域の発展を両輪と捉える案Cに賛同する。「学び合い 共に創る 地域の未来」としてはいかがか。

【委員】

「大田」という言葉や、「学ぶ」とことと「つながり」を連想させる言葉を入れたい。案の中にあるキーワードを組み合わせるのもよいのではないか。

【委員】

文化センターでは多くの人が活発に活動していて、自治会や学校の行事にも多くの人に参加しているが、孤立や一人暮らしが非常に多い。そのため、学ぶだけでなく人のつながりや居場所づくりが重要である。孤立せずいきいきと過ごせることを表現した案Bが良いと感じる。

【委員】

小学校では「おおたの未来づくり」という新しい教科が始まり、地域に学び、地域に愛着や誇りを持つ子どもを育てようとしている。その観点からは案Bがしっくりくる。「共創」は重要なワードだが、遠いゴールという印象がある。

まずは顔の見えるつながりからと考えると、案Bが取り組みやすいと感じた。

【委員】

国際都市おおた協会でボランティア対象のセミナーを実施し、学んだことをそれぞれの地域で広げてもらう活動をしている。このように、一人ひとりが学んで広がりを見せていくことが伝わる理念が良い。その意味で「響き合い」や「共に創る」といった表現が良いと感じた。

【委員】

「共創」はハードルが高く、特に若い世代は個人での学びや活動を好む傾向がある。そのような世代を取り込んでいくことを考えたとき、行政が全てのインフラを用意するのは現実的ではなく、個人が学ぶ姿を地域に広めていく仕組みが必要である。誰もが一人で学ぶ居心地の良さを感じながらも、このままでは地域の基盤が崩れるのではないかという危機感の両方を持っている。どちらが良い悪いはなく、どちらか一つに染まるものでもない。サークル活動等の一緒に活動することへ抵抗を持つ層も包括する、包容力のあるプランにしていくことが大事である。また、生涯学習を推進する上で得られる成果、例えば心身の健康維持などのアウトカムを示す指標が必要である。理念としては、案Aをベースにしつつ、共創は最終的なゴールとするのが良いのではないかと。

【委員】

学びの出発点は内発的な動機であり、自立、有能感が重要である。個人の学びが結果的につながりや人の役に立つことに発展していくと考える。最初からつながりを目的とするのではなく、内発的な学びから入る案Bが良いと感じる。案Bに「人の役に立つ」というニュアンスが加われば良い。

【委員】

生涯学習を担当する部署名が「地域力推進部」から「地域未来創造部」に変わった。それが案Aや案Cに「未来」という言葉が入っている理由か。「地域力」という言葉は大田区独自で力強さがあると感じていた。「地域力」を入れ

ないとしても、力が寄せ集まっていくようなイメージを生かせたらと思った。

【事務局】

「地域力推進課」という組織は残っているが、部名は「地域未来創造部」となった。案Aや案Cには、その思いも込め、「未来」を用いている。「共に創る」という表現は、地域の力もイメージしている。他の案も表現は異なるが、学び合いや、学びをきっかけに地域の力を高めていくという要素を入れている。

【委員】

学校教育でも暗記中心のものから、自ら問いを立てて課題を解決する力を養う方向へ変化している。学び方を教える意味では、生涯学習の推進は重要である。理念は普遍的な考え方であるため、頻繁に変えるものではないのではないかという疑問もある。生涯学習のイメージとしては案AやCが良いと思うが、どれかを選択するだけでよいのか疑問に思ったところである。

【会長】

私が関わっている他市の例でも、理念は大きく変わっていない。現行計画の理念から変えようとしている背景について、事務局からご説明をお願いします。

【事務局】

現行の「地域力」も重要であるが、組織改編もあり、「未来」に向けてより力強くメッセージを発信したいという思いがある。地域の力を前提として、学びをきっかけとしたつながりから、地域課題の解決へつなげていくという大きな方向性に変更はないが、メッセージ性を変えたいと考えている。

【会長】

理念の根本が変わるわけではないが、課題意識から来る考え方の変化などはあってもおかしくない。今は、地域の大きな転換期にあるため、事務局も理念の表現を調整するという意図だと推察する。

【委員】

「共創」という言葉を推したが、これは若者や学生との共創など、未来につながる要素だと考える。これまで参加してこなかった層、特に若い世代の力を生かして未来を作っていくために、「共創」や「手を取り合う」といった表現を大切にしてほしい。

【委員】

第2次計画の特徴として「こども・若者を地域のまんなかへ」とあるため、地域の真ん中に持ってくるほどの強い理念が必要である。「共創」はハードルが高いという意見もあったが、長年使う理念として目指すところは高い方が良い。案Cをベースに「学び合い 共に創る おおたの未来」としてはどうか。

【副会長】

地域づくりに関わってもらいたいという思いが強い一方で、まずは学びの裾野を広げることが前提として大切である。最初から地域づくりを強調すると、生涯学習の自由で主体的な部分が損なわれるおそれがある。自然に学びが広がっていく様子を表す「響き合い」が含まれる案Aが良いと感じる。「未来を拓く」という能動的な要素も良い。案Cもシンプルで良いと思う。

【委員】

案Bを推していたが、現行計画の「羽ばたく」という大田区らしさ（羽田）を取り入れ、案Aをベースに「一人ひとりの学びが響き合い 未来に羽ばたくまち」とするのも良いのではないか。先ほどのC案の変更案もよいと思ったので、要素を足していくとよいのではないか。

【会長】

様々な意見が出たが、一つに収斂するのは難しいため、本日出た重要な観点を整理し、会長と副会長で事務局と調整して決定する形でよいか諮りたい。重要な観点としては、以下の通ると考える。

- 1 「共につくる（共創）」という考え方を大切にする。

- 2 「学び合い」に「支え合う」という要素を加える。
 - 3 地域づくりという方向性を示す。
 - 4 一人ひとりの学びが起点となることを示す。
 - 5 「大田」や「羽ばたく」（羽田空港を意識）といった地域性を示す。
- これらの点を織り込みながら会長、副会長に一任いただくのはいかがか。

（ 異議なし ）

非常に多くの観点をいただき感謝申し上げます。

決定した理念は、次回の推進会議でお知らせさせていただく。

【事務局】

委員の皆様からの多様な意見を受け止め、理念をお示しできればと思っている。最後に、地域未来創造部長の田村よりご挨拶申し上げます。

6 閉会

【地域未来創造部長】

本日は活発なご議論をいただき感謝する。提示した内容（理念、重点的取組）がやや観念的であったという反省もあるが、理念は今後の計画の基本スタンスや信念となる重要なものであるため、多様な意見をいただきたかった所存である。

地域社会の核となる「コミュニティの形成」は、主体的に生きることや、他者と共に生きることなどであり、その手法として、学び・スポーツ・文化等がある。特に学びは、地域社会への関心や問題意識に繋がるものが多く、地域を動かすエネルギーとなる学びが持つ力を人づくりに生かすことを仕組化し、持続可能な地域づくりに昇華させたいと考えており、この計画を策定する意義だと思っている。

また、重点的取組については、以下の３点に着目して、区の特性として提示させていただいた。

- 1 文化センター等の身近な社会教育関係施設での学び（公民館的機能）

2 次世代を担う若者やこどもの学びの充実

3 地域の活力や学校などの資源を生かす「共創」

個性が尊重される時代においても、母子保健、幼児教育、学校教育、部活動、家庭教育、社会人のリスキリングやセカンドライフの学びなど、ライフステージに応じた各場面で自ら学び活動していく先に暮らしやすい地域があると考えている。

こうした方向性が、今回の理念に込めた思いでもあり、この計画で一番申し添えたいところであり、全国でも最も学びが活発な自治体にしたいという思いを持っている。

次回は、今回の議論を踏まえた実践的な取組例を提示する予定であり、引き続きご協力いただきたい。

【事務局】

次回の第5回推進会議は8月25日（火）午後2時から、消費者生活センターで開催予定である。追加の意見があれば、6月29日までに意見書を提出いただきたい。本日は長時間の審議、誠に感謝する。

それでは、以上をもって閉会とする。